

## 事業群評価調書(平成28年度実施)

基本戦略名	6 産業を支える人材を育て、活かす	事業群主管所属	教育庁義務教育課
施策名	(1) キャリア教育の推進と企業人材の育成	課(室)長名	木村 国広
事業群名	① キャリア教育・職業教育の推進	事業群関係課(室)	産業政策課、高校教育課

### 1. 計画等概要

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)】					
《長崎県総合計画チャレンジ2020 本文》					
子どもたちが主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、望ましい勤労観や職業観を形成していくことができるよう、各学校種におけるキャリア教育・職業教育の充実を図ります。					
事業群指標	最終目標 (H32)	基準値 (H26)	実績 (H27)	達成率	【進捗状況の分析】 ①子どもたちが、「あの人のようになりたい」、「あの人のような生き方がしたい」といった「夢・憧れ・志」を抱くことができる教育環境の整備を産学官が連携して行っている。実績は、昨年度から横ばいの状況にある。
夢や憧れがある児童(小学校)及び夢の実現に向けて行動している生徒(中学校)の割合	100%維持	79.4%	78.5%	—	
事業群の進捗状況	—				

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)の分析】				
《取組項目及び現状と課題》				
<p>i) 「夢・憧れ・志」をもった長崎っ子を社会全体で育成するための産学官連携した教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業界や大学等と連携し、各学校区での「職場体験」や「職業人講話」等の取組を支援する産学官連携や連携応援会議を年3回開催することで、郷土の魅力ある大人と子どもが出会う機会を確保し、将来の目標に向かって努力する子どもの育成につながっている。</li> <li>今後、各地域での具体的支援体制づくりのため、全県的協力体制を築いていく必要がある。</li> </ul>				
<p>ii) 県内就職率向上に向けた取組の推進のために求人開拓等を行う専門員を配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度から平成27年度までは、キャリアサポートスタッフ事業として、専門員を配置した。(平成27年度は、高等学校配置が29校(うち併任配置12校)、特別支援学校配置が10校(うち併任配置5校)キャリアサポートスタッフ22名)</li> <li>キャリアサポートスタッフ配置校における県内就職内定者の割合は64.8%で、公立高校全体の56.2%に比べて8.6%ポイント上回るなど、その効果は高く、総合計画に示す目標達成のためには、配置の充実と配置しているキャリアサポートスタッフ間の連携や情報交換が必要である。</li> </ul>				
<p>iii) 将来の産業を支える人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導主事会参加者において、「とても参考になった」「参考になった」と答えた割合が92%と高く進路指導主事の資質の向上に寄与しているが、より研修内容の充実(参加者の意見交換の時間の確保、キャリア研修会の報告等)を図ることにより数値の改善に取り組む。</li> <li>民間講師招へい事業において、参加した生徒の92.8%が「職業について考える機会になった」と答えていた。</li> <li>プロジェクト研究事業では、農業高校4校すべてで、地域や企業、行政と連携し充実して研究に取り組んでいる。</li> </ul>				



### 3. 検証及び問題点の抽出

<p><b>【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】</b></p> <p>i) 「夢・憧れ・志」をもった長崎っ子を社会全体で育成するための産学官連携した教育環境の整備に関しては、「長崎っ子の『夢・憧れ・志』応援会議」において社会全体が連携しながら子どもへの関わることにについて協議を深めたり、重点支援地域での講演会を実施することで、長崎っ子の「夢・憧れ・志」を育む環境の整備を行い、学校と魅力ある人をつなぐことに寄与することができたが、これらの取組の周知が十分とまでは言えない。</p> <p>ii) 県内就職率向上に向けた取組の推進のために求人開拓等を行う専門員を配置することにより、県内就職割合が配置していない学校に比べ17.1ポイント高いことから、専門員の配置は県内就職割合の向上に寄与しているが、より事業効果を高めるため、県外就職の多い工業高校等への配置数を増やす必要がある。</p> <p>iii)</p> <p>・将来の産業を支える人材の育成については、民間講師招へい事業に参加した生徒の9割以上が「職業について考える機会になった」と答えていることから、職業観の醸成がなされており、生徒の進路選択に寄与している。しかしながら、派遣される講師の地域を限定していることにより、学校が求める講師の選定に限界がある。</p> <p>・学校の進路指導の中心を担う進路指導主事の研修会において、参加者の9割以上が「参考になった」と答えていることから、教員の資質が向上し、生徒の進路指導に寄与しているが、今後、情報交換の時間の確保や研修会の報告等を実施するなど、さらに内容の反省と分析を繰り返しながら時代に沿った内容にしていく必要がある。</p>
--



### 4. 29年度実施に向けた方向性

【問題点解決に向けた方向性】	【個別事務事業の見直し】			
	事務事業名	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
i) 「夢・憧れ・志」をもった長崎っ子を社会全体で育成するための産学官連携した教育環境の整備 「長崎っ子の『夢・憧れ・志』応援会議」の更なる充実を図るとともに、各市町教委や関係団体への情報提供の仕方を工夫することにより、取組の効果を高める。	長崎っ子の「夢・憧れ・志」を育む環境整備事業	—	平成28年度においては、子どもたちに将来への夢・憧れ・志を抱かせるために、社会全体で何ができるか共に考え、行動するような応援体制をつくるため、「長崎っ子の『夢・憧れ・志』応援会議」を年3回実施する。 平成29年度においても、キャリア教育・職業教育の充実のためには、引き続き社会全体が一体となって取り組む必要があり、本事業を継続し、産学官が連携して子どもたちの育成に取り組むための環境を整える必要がある。	現状維持
ii) 県内就職率向上に向けた取組の推進のために求人開拓等を行う専門員を配置 ・平成27年度の「キャリアサポートスタッフ事業」を廃止し、今年度からは所管を産業労働部に移し、「高校生のためのふるさと長崎就職応援事業」として、特に県外就職者が多い工業高校にもキャリアサポートスタッフを配置し実施している。今後は、事業効果をふまえて、配置校の変更や専門員の増員を検討していく。	高校生のためのふるさと長崎就職応援事業	⑨	平成28年度においては、配置規定の見直し等を実施し、キャリアサポートスタッフ25名を併任を含めて47校へ配置し、事業効果をあげていく。 平成29年度においては、工業高校の重点的配置の効果を分析し、配置校の変更等を検討していく。	改善
iii) 将来の産業を支える人材の育成 ・生徒の進路指導の充実が学校として不可欠である。常に新しい情報を入手していくことが進路指導には重要であることから、内容の更新を常に考慮しながら継続していく。 ・民間講師招へい事業は、生徒の職業観の向上に寄与していることが数値から伺えており、引き続き事業を継続していく。	産業教育指導費	②	平成28年度においても実施している企業・研究機関等から講師を招へいし講演を行う民間講師招へい事業等は、就職希望者の職業観の向上に寄与している。 平成29年度においては、講師の選定方法の見直し方を検討し、改善を図っていく。また、プロジェクト研究活動に対する支援(農業)、技術・技能向上に対する支援(工業)により、本県の高校生は多くの日本一を取得する等、有意義な支援となっているため、今後も継続していく。	改善
	進路指導費	②	平成28年度においては、生徒の進路指導の充実を図るため進路指導主事研修会等を引続き実施する。特に進路指導主事研修会の中で、H27年度に新たに実施したキャリア教育研修会の報告は、参加者の資質向上につなげることができた。 平成29年度においても引続き事業を実施しながら、校種別・地域別の情報交換の時間を拡大し、内容の充実を図っていく。	改善